

[横浜美術館]

令和 2 年度業務報告及び収支決算

[公益財団法人横浜市芸術文化振興財団]

※文中の事業欄において、

●：主催事業 ○：共催事業
を示します。

※文中の達成指標欄において、

□：定量的指標 ■：定性的指標
を示します。

1 施設の概要

施設名	横浜美術館
所在地	横浜市西区みなとみらい3丁目4番1号
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造8階建 一部3階建
敷地・延床面積	19,803 m ² ・26,829 m ²
開館日	平成元年11月3日

2 指定管理者

法人名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所在地	横浜市中区山下町2番地 産業貿易センタービル1階
設立年月日	平成3年7月10日
指定期間	平成25年4月1日から平成35年3月31日まで

3 基本方針

(1) 基本的な方針の総括

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、昨年度末の2/29から5/31まで全館臨時休館となり、その後は事業毎に会場の消毒やオンラインでの事業実施など必要な対策を講じて順次再開しましたが、今年度末まで再開できない事業もあり、美術館活動に大きな影響がでました。

このような中であって、横浜トリエンナーレを無事に開催し一定の評価を得ることができたこと、横浜トリエンナーレを中心に教育プログラムをいち早くオンラインで提供できたこと、コレクションにかかわる事業を計画通り進めることができたことが、今年度の成果であると考えています。

なお、3/1より令和5年度まで大規模改修工事により全館休館しています。

(2) 令和2年度の業務の方針及び達成目標の総括

① 経営の総括

◇横浜トリエンナーレ

・第7回目にして初めて海外からアーティスト・ディレクターを迎え、コロナ禍における国内初の大規模な芸術祭として大きな混乱なく開催することができ、五大紙すべてに展評が掲載され、とりわけ、キーワードの一つである毒とコロナ禍を重ねてアートの予言力への言及が多くみられるなど、美術展としてのみならず社会的な観点からも注目を集めました。

◇海外との連携

・継続して行ってきた JICA および国立民族学博物館による博物館学国際研修の受入はコロナ禍のため中止となりましたが、それ以外はオンラインで実施するなど計画通り実施しました。

◇広報

・4月は館長着任、10月はコロナ禍を踏まえて教育普及講座のオンライン配信、3月は閉館など、例年にない全館的な出来事について時機を捉えてウェブで効果的に発信しました。

◇外部連携

・コロナ禍に対応してオンラインで事業を実施するなど、計画を達成しています。

② 事業の総括

◇企画展

・来場者数については、企画展合計の目標 20.5 万人に対し、実績は 133,552 人（65.1%）と、コロナ禍のため大きく下回りました。具体的な要因としては、澄川展では 2/29 からの全館休館による会期の大幅な短縮、横浜トリエンナーレでは開幕を遅らせたことによる会期の短縮とともに日時指定予約チケット制の導入による入場者数制限、トライアログ展でも引き続き日時指定予約の導入による入場者数制限がありました。

・日本経済新聞回顧(12/7)、読売新聞回顧(12/9)、毎日新聞回顧(12/10)、朝日新聞回顧(12/22)、産経新聞(12/28)では、横浜トリエンナーレについてはアートの予言力や国際芸術祭の定着という観点から、トライアログ展についてはコロナ禍におけるコレクションへの注目の気運として取り上げられました。

・New Artist Picks については、コロナ禍のため昨年度末に計画しつつも実施できなかった柵瀬茉莉子展を、若干の新作を加えて、今年度開催しました。

◇コレクション

・来場者数については、コレクション展合計の目標 8.2 万人に対し、実績は 49,098 人（59.9%）と、企画展と同様の要因で、目標を大きく下回りました。

・コレクション国内巡回については、トライアログ展が来年度 2 つの共同企画館に巡回し、また大規模改修中の当館コレクション館外展覧会の実施にむけて調整しています。

・そして、コレクション作品画像については、昨年度策定した大規模改修を含めた今後の撮影と公開の計画に基づき進めています。

◇美術情報センター

・美術情報センターでは、30,000 人の目標に対し、4,745 人（15.8%）と、コロナ禍により大きく下回りましたが、普及のための事業は計画どおり実施しました。

・そして、所蔵映像資料デジタル化については、昨年度策定した大規模改修を含めた今後の計画に基づき進めています。

◇教育プログラム

・鑑賞教育については、コロナ禍の影響を大きく受けましたが、計画通り実施しました。澄川展およびコレクション展 1 期のプログラムは展覧会会期が大幅に短縮になったものの急遽オンラインで実施し、また、横浜トリエンナーレではオンラインを主軸に開催し、トライアログ展およびコレクション展 2 期ではオンラインを併用して実施し

ました。

- ・特に、横浜トリエンナーレでは、展覧会と並行して展開されたエピソードの多くをオンラインで展開し、また他館に先駆けてボランティアによる個人、団体、外国人等にむけたオンライントークを実現するとともに、中高生、ろう者、若者支援施設、教師、学校といった様々な方にむけた鑑賞プログラムや作家ワークショップを主にオンラインで提供しました。なお、学校に向けた作家等のワークショップについては、学校に出向いて開催しています。
- ・アトリエについては、子どものアトリエは20,000人の目標に対し1,041人(5.2%)、市民のアトリエは4,800人の目標に対し2,751人(57.3%)と、コロナ禍のため大きく下回りました。その要因は、今年度当初から8月末までのアトリエ講座の中止および親子のフリーゾーンの今年度全て中止です。
- ・しかしながら、9月以降対策を講じて通常講座を開始するとともに、8月以降には徐々にオンライン講座の提供を開始し、10月以降には教育普及講座のオンラインのサイトへ定期的にプログラムを提供しました。特に、トライアログ展の関連プログラムとして実施した「《王様の美術館》からつむぐ物語」と題した講座では、作品から喚起される物語を広く一般の方から募集し、森山未来さんが朗読した入選作品をウェブサイトで配信するなど、オンラインを活用したユニークな試みを行いました。

◇市民協働・地域や市民に貢献する事業

- ・ボランティアについては、子どものアトリエのボランティアは活動の中心となるフリーゾーンが中止となりましたが、鑑賞ボランティアは横浜トリエンナーレでのオンライントークで活躍しました。
- ・コレクション・フレンズは、オンラインで他館調査を行うなど、大規模改修後にむけた調査を行いました。
- ・外部組織との新たな協働関係については、大規模改修後のあり方を検討しています。
- ・アウトリーチについては、コロナ禍により病院や高齢者施設に出向くことはできませんでしたが、これまで連携してきた大学や福祉施設については、オンラインを併用し、研修や鑑賞を行いました。

③ 運営管理の総括

◇適正な施設管理

- ・来館者サービスとしては、コロナ禍に際し順次再開する各事業での必要な対策を講じました。

◇自主財源の獲得

- ・企業連携プログラム Heart to Art については、コロナ禍により3社に留まり、昨年度と比して4社減、目標未達成となりました。

◇収支

- ・収入については、全館休館による事業収入減があったほか、新型コロナウイルス対応による指定管理料（夜間運営費）の精算という減収要因があった一方、補助金を積極的に獲得するなど、増収に努めました。支出については、事業減による関連費用の大幅減があったほか、光熱水費などを縮小させ、全体として黒字決算につながりました。

④新型コロナウイルス感染症拡大防止への対応（再掲）

- ・2/29-5/31 全館臨時休館
- ・順次開始：6/1-駐車場
7/17-展覧会、美術情報センター、ミュージアムショップ、カフェ、レクチャーホール（練習プラン）
9/1-子どものアトリエおよび市民のアトリエ講座
11/1-レクチャーホール（一般貸出）

4 経営に関する計画

◇政策目標『横浜美術館は国際都市横浜の魅力を牽引します』

(1) 横浜トリエンナーレ [重点的な取組み]

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>主会場としての当館の特性を活かすと同時に運営組織の構築・基盤整備を行い、国際的ネットワークを構築しながら困難な状況下でも継続的に実施することで、当館の発信力を最大限に発揮するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜トリエンナーレへの全館体制での取組みを強化します。 ・過去3回の横浜トリエンナーレの企画運営に関わった経験と、国内外の国際展に関する知見を基に、横浜トリエンナーレの国内外への発信力をより高める企画運営体制を市に提案し、推進します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第7回目にして初めて海外からアーティストック・ディレクターを迎え、コロナ禍における国内初の大規模な芸術祭として大きな混乱なく開催することができ、五大紙すべてに展評が掲載され、とりわけ、キーワードの一つである毒とコロナ禍を重ねてアートの予言力への言及が多くみられるなど、美術展としてのみならず社会的な観点からも注目を集めました。 		
<p>[取組内容]</p> <p>●ヨコハマトリエンナーレ2020の実施</p>	<p>[達成指標]</p> <p>■入場者数 130,000人(再掲)</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【未達成】73,782人(別途無料ゾーン15,405人)</p> <p>*コロナ禍影響*</p>

(2) 海外との連携 [重点的な取組み]

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>当館の発信力の強化に資する事業として、アジアの国々と重点的に連携するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質の高い展覧会を関係機関と協働して組織し、アジアをはじめ海外に巡回し、活動を強化します。新たに共同企画など深い協働性を通じた高度な質を目指します。 ・コレクションによるパッケージ展を立案し、他の美術館での開催を有料でオファーし、活動を強化します。 ・H28に新設した国際グループを中心に、全館体制で推進・強化します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続して行ってきたJICAおよび国立民族学博物館による博物館学国際研修の受入はコロナ禍のため中止となりましたが、それ以外はオンラインで実施するなど計画通り実施しました。 		
<p>[取組内容]</p> <p>●コレクションパッケージ展あるいは企画展の海外巡回</p> <p>●海外インターン受入</p> <p>●日英での展覧会の会場パネル、カタログ作成</p>	<p>[達成指標]</p> <p>■大規模改修後に向けた準備</p> <p>□1回/年</p> <p>□1回/展</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3期提案書案にて検討結果報告 <p>【未達成】0回/年</p> <p>*コロナ禍影響*</p> <p>【達成】1回/展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会場パネルは冒頭パネルと章パネルを日英併記 ・カタログは概要、奥付、挨拶、作品リ

●日英での紀要の発行(再掲)	<input type="checkbox"/> 1回/年	ストを日英併記 【達成】1回/年 ・3/22 発行(サマリーを日英併記)
●外国人団体向けボランティア・トーク(再掲)	<input type="checkbox"/> 1回/年	【達成】3回/年
●日英での展覧会プレスリリース作成	<input type="checkbox"/> 1回/展	【達成】1回/展
●海外メディアへの展覧会プレスリリース送付	<input type="checkbox"/> 1回/展	【達成】1回/展
●海外VIPへの展覧会招待状送付	<input type="checkbox"/> 1回/展	【達成】1回/展 ・澄川展, ヨコトリ, トライ展(ご案内)
●海外来館者の把握	■通年	【達成】通年

(3) 広報

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <p>発信力の強化に資する事業として、事業および施設の広報を充実させるため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報・連携体制の充実・強化：①個別の展覧会や事業ごとの宣伝と全館広報の両立、②市民やメディアとの信頼と関係強化、③館として発信するパンフレットや刊行物発刊、④ソーシャルメディアの効果的な運用方法の開発を実施し、活動を強化します。 ・マーケティングの強化：認知度および顧客満足度調査などを試行的に実施し、コンセプト及びターゲットの明確化の推進を、引き続き実施します。 ・首都圏に向けた広報に力を入れます。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月は館長着任、10月はコロナ禍を踏まえて教育普及講座のオンライン配信、3月は閉館など、例年になく全館的な出来事について時機を捉えてウェブで効果的に発信しました。 		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●展覧会および全館広報などの通常業務 ●首都圏と横浜の各々に焦点をあてた広報 ●ウェブを活用した全館広報 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>露出件数 700 件/年 <input type="checkbox"/>ウェブサイトアクセス数 4,700,000 件/年 <input type="checkbox"/>1回/年 <input type="checkbox"/>1回/年 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> 【達成】3,158 件/年 【達成】4,791,824 件/年 【達成】1回/年 ・首都圏：11月東京国立近代美術館「眠り展」相互割引(トライ展) ・横浜：11月横浜ロイヤルパークホテルタイアップメニュー(トライ展) 【達成】3回/年 ・4/21 館長着任動画配信

		<ul style="list-style-type: none"> ・10/6 教育普及「オンラインで楽しむ！エデュケーション・チャンネル」公開 ・3/1 休館ウェブサイト公開(休館挨拶動画公開)
--	--	---

(4) 外部との連携

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>営業力の強化に資する事業として、都市型美術館の特色を打ち出すため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市戦略との連携：創造都市、シティセールス、観光プロモーションと連携した事業展開を引き続き実施します。 ・専門性を活かしたネットワークの強化：①社会課題や子どもへの取組みについて財団内連携、②美術家、事業者、NPO、ボランティア、大学等との連携を引き続き実施します。 ・美術館の特色を生かしたオリジナリティの高い事業とするため、より高い質を重視した事業展開を目指します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍に対応してオンラインで事業を実施するなど、計画を達成しています。 		
<p>[取組内容]</p> <p>●専門館連携あるいは外部連携をしつつ、専門性を活かした横浜市推進事業との連携し、オリジナリティの高い事業を実施</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□4回以上/年</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】4回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/24, 8/15 1ドルコンサート atHome 親子のフリーズーン配信 [みなとみらいホール連携] (オンライン) (再掲) ・1/23 クラシックヨコハマ[市連携] ・1-3月フォトヨコハマパートナーイベント[市連携]

5 事業についての計画

◇政策目標『質の高い多様な展覧会の実施と発信を通じて、来館者の裾野を広げます』

(1) 企画展

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>発信力の強化に資する事業として、そして営業力の強化に資する事業として、展覧会基本方針等に立脚し、質の高い文化活動を実現するとともに、来館者の裾野を拡大するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独創性、地域性、発信性、経営的な観点を踏まえて、バラエティに富んだ企画展をバランスよく開催することを、引き続き実施します。 ・集客が期待でき、学芸的な知見・研究に基づく魅力的な企画案を積極的にマスメディアに提案し、共催することを引き続き実施します。 ・コレクションをベースとした企画展の開催を引き続き実施します。 <p>[成果についての振り返り]</p>

- ・来場者数については、企画展合計の目標 20.5 万人に対し、実績は 133,552 人 (65.1%) と、コロナ禍のため大きく下回りました。具体的な要因としては、澄川展では 2/29 からの全館休館による会期の大幅な短縮、横浜トリエンナーレでは開幕を遅らせたことによる会期の短縮とともに日時指定予約チケット制の導入による入場者数制限、トライアログ展でも引き続き日時指定予約の導入による入場者数制限がありました。
- ・日本経済新聞回顧(12/7)、読売新聞回顧(12/9)、毎日新聞回顧(12/10)、朝日新聞回顧(12/22)、産経新聞(12/28)では、横浜トリエンナーレについてはアートの予言力や国際芸術祭の定着という観点から、トライアログ展についてはコロナ禍におけるコレクションへの注目の気運として取り上げられました。

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p>●澄川喜一 そりとむくり</p> <p>【会期：2月15日(土) -5月24日(日)・86日間】</p> <p>澄川喜一(1931年生まれ)の卒寿を記念し、公共空間における抽象彫刻や、スカイツリーや横浜市内の橋など多くの公共造形物など、多岐にわたる造形活動を、日本の美意識やそれに基づく伝統造形との関わりを検証しつつ、回顧します。</p>	<p>□入場者数 25,000 人 (290 人/日)</p>	<p>【未達成】 2,691 人 (224 人/日)</p> <p>・会期：2月15日(土) -2月28日(金)・12日間</p> <p>*コロナ禍影響*</p>
<p>●ヨコハマトリエンナーレ 2020</p> <p>Afterglow—光の破片をつかまえる</p> <p>【会期：7月3日-10月11日・90日間】</p> <p>アーティストック・ディレクターにラクス・メディア・コレクティブを迎え、横浜美術館をメイン会場として開催します。</p>	<p>□入場者数 130,000 人(1,444 人/日)</p>	<p>【未達成】 73,782 人 (946 人/日)</p> <p>・会期：7月17日(金) -10月11日(日)・78日間</p> <p>*コロナ禍影響*</p>
<p>●トライアログ 横浜美術館・愛知県美術館・富山県美術館 20世紀西洋美術コレクション</p> <p>【会期：2020年11月14日(土) -2021年2月28日(日)・87日間】</p> <p>愛知県美術館、富山県美術館と連携し、20世紀西洋美術を概観します。横浜美術館の休館前最後の展覧会として開催した後、当館の休館中に2館に巡回する予定。</p>	<p>□入場者数 50,000 人 (574 人/日)</p>	<p>【未達成】 41,674 人 (479 人/日)</p> <p>*コロナ禍影響*</p>
	<p>□企画展アンケート 4.0 以上/年</p>	<p>【達成】 4.46/年</p>

(2) New Artist Picks

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>有望な若手アーティストに作品発表の機会と場を提供し、創作活動を支援するため、継続的に取組み、広報を強化して、一定の入場者数を確保します。また、質の向上に取り組むと同時に、展覧会后5年間の作家の活動を把握し成果を確認することで、活動を強化します。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・New Artist Picks については、コロナ禍のため昨年度末に計画しつつも実施できなかった柵瀬茉莉子展を、若干の新作を加えて、今年度開催しました。 		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●New Artist Picks 2020 ●展覧会后5年間の作家の活動を把握 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □入場者数 3,000人(メイン会場) □1回/年 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【未達成】2,812人(メイン会場) 4,500人(全会場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11/14-12/13 柵瀬茉莉子展 *コロナ禍影響* <p>【達成】1回/年</p>

◇政策目標『魅力的なコレクションを形成、活用するとともに、未来へ継承します』

(1) コレクション

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>収集方針に基づき、作品の収集を提案し、横浜市民共有の財産として収蔵している優れたコレクションをさらに充実させ、市民の共有財産であるコレクションを適切に保管して次世代に継承し、コレクションを市民に還元し、美術館のプロモーションに貢献するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集：①市民に親しまれる作品、美術の新しい価値を創造する作品、横浜の美術の歴史を伝える作品収集提案、②現行の中期重点方針を見直し、現状に即した内容に改定して横浜市に提案、3か年ごとの収集計画を策定して収集を促進、③横浜トリエンナーレの機会に話題性のある現代美術作品の収集提言を、引き続き実施します。 ・保存：①作品の安全な保存、②作品台帳および収蔵庫内の作品蔵置場所の整備を、引き続き実施します。 ・活用：①原則として年2～3回コレクション展開催（展示構成やテーマ展示などを工夫、人気の高い作品を展示する一方なるべく多くを展示、特に新収蔵作品は迅速に展示公開、同時期に開催する企画展と連動したテーマ展示、展示方法や展示室の環境整備と情報提供を工夫）、②コレクションによるパッケージ展を立案し、他の美術館での開催を有料でオファーし、活動を強化します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コレクションの形成 収集方針に基づいて、収集候補作品を提案しました。 ・コレクションの保存 <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な収蔵庫内の点検と清掃を実施し、庫内環境の保全に努め、収蔵庫の状況について現状の課題を市と共有しました。 ・新収蔵品のデータを登録し、目録として公開し、広く研究に貢献しました。
--

<p>・コレクションの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来場者数については、コレクション展合計の目標 8.2 万人に対し、実績は 49,098 人 (59.9%) と、企画展と同様の要因で、目標を大きく下回りました。 ・コレクション国内巡回については、トライアログ展が来年度 2 つの共同企画館に巡回し、また大規模改修中の当館コレクション館外展覧会の実施にむけて調整しています。 ・そして、コレクション作品画像については、昨年度策定した大規模改修を含めた今後の撮影と公開の計画に基づき進めています。 		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コレクションの形成、保存に関する通常業務 ●コレクションの活用 <ul style="list-style-type: none"> ・コレクション展 <p>同時期に開催中の企画展とゆるやかに連動しつつ、ヴァリエティに富む横浜美術館コレクションの魅力伝える展示を行います。</p> ・1期【会期：2月15日(土) -5月24日(日)・86日間】 ・2期【会期：11月14日(土) -令和3年2月28日(日)・87日間】 ・コレクション展広報物の作成 ・コレクション画像撮影と公開 ・コレクション国内巡回展 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>入場者数 27,000 人 (313 人/日) <input type="checkbox"/>入場者数 55,000 人 (632 人/日) <input type="checkbox"/>コレクション展アンケート 4.0 以上/年 <input type="checkbox"/>1 回/年 ■撮影 ■実施にむけ調整 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> 【達成】実施 <ul style="list-style-type: none"> ・3/12 目録発行 【未達成】3,600 人 (300 人/日) <ul style="list-style-type: none"> ・会期：2月15日(土) -2月28日(金)・12日間 *コロナ禍影響* 【未達成】45,498 人 (523 人/日) <ul style="list-style-type: none"> *コロナ禍影響* 【達成】4.12/年 【達成】1 回/年 <ul style="list-style-type: none"> ・11月コレクション展2期(新聞広告) 【達成】実施 【達成】実施 <ul style="list-style-type: none"> ・会場館契約は次年度

(2) 美術情報センター

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>デジタル化の時代においてこそモノとしての「美術情報」の重要性と稀少性に着目し、専門的な見地にたつて、これらを収集・整理・保管し、様々な人の要望に対応し、適切かつ丁寧に提供することで、これまで蓄積してきた図書等の美術情報を発展的に継承し、公開して市民や研究者の利用に供するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的な収集・整理・保管、市民、専門家、子どもなど様々な人の要望に対応し、適切かつ丁寧に提供することを、
--

<p>引き続き実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 横浜トリエンナーレの実施にむけて、関連する美術情報を集積することを、引き続き実施します。 開かれた専門性をめざし、他事例の調査に基づいた具体的な取組みを実施します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> 美術情報センターでは、30,000人の目標に対し、4,745人（15.8%）と、コロナ禍により大きく下回りましたが、普及のための事業は計画どおり実施しました。 そして、所蔵映像資料デジタル化については、昨年度策定した大規模改修を含めた今後の計画に基づき進めています。 		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●収集、分類、保管、利用者提供などの通常業務 ●普及のための事業 ●所蔵映像資料デジタル化 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □利用者数 30,000人/年 □5回/年 ■素材状況調査/著作権クリア 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【未達成】4,745人/年</p> <p>*コロナ禍影響*</p> <p>【達成】5回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7/17-9/2, 9/4-2/28 特別資料展示2件 ・7/17-2/28, 7/17-8/5, 8/7-2/28 関連資料コーナー3件 <p>【達成】実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月 教育ビデオの外部調査

(3) 調査・研究

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <p>あらゆる美術館活動の基礎としての調査・研究を実施するため、成果は事業に反映すると同時に、紀要などにまとめて社会に還元し、活動を強化します。なお、専門性を広く市民のために役立てるため、専門的活動の効果的な開示を、海外も視野にいれて実施します。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職位に応じて、事業および通常業務の遂行においてOJTを実施し、専門的知見とスキルの伝達および習得に取り組みました。 ・研究紀要では、紀要（サマリー）の日英併記を徹底し、一層の発信強化を実現しています。 		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●紀要の発行（論文3本以上、日英併記、販売検討）[再掲：日英併記] 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □1回/年 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】1回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3/22 発行（後日オンライン公開）

◇政策目標『美術と市民を様々な糸口でつなぎ、美術の魅力を伝えます』

(1) 教育プログラム：鑑賞教育 [重点的な取組み]

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <p>教育プログラムの強化に資する事業として、鑑賞を深める機会を多くの方に提供することで、社会教育機関である美術館の重要な使命を果たすため、そして、幅広い世代の、様々な立場の、様々な属性を持つ人々に美術の価値を還元</p>
--

するという公立美術館の使命を果たすため、

- ・H24に組織新設し、鑑賞、創作体験、子ども対象を連動させた独自のエデュケーションプログラムを強化します。
- ・①ワークショップ、鑑賞会などコレクション展鑑賞サポートのレギュラーサービス化、②学校連携による鑑賞プログラムを開発、③主にコレクション展のための鑑賞サポートツールの開発を行い、活動を強化します。
- ・視覚障がい者むけ鑑賞サポートツール開発により、活動を強化します。
- ・展覧会鑑賞パートナーによるコレクション展ギャラリートーク等の実施を通じて、活動を強化します。なお、様々なプログラムの試行を踏まえ、横浜美術館の特徴を活かしたオリジナリティある定番プログラムの確立を目指します。
- ・質を保ちつつ、市民ならではの視点を活かした個性あふれるボランティア・トークについて、外国人向けなど種類を拡大します。

[成果についての振り返り]

- ・鑑賞教育については、コロナ禍の影響を大きく受けましたが、計画通り実施しました。澄川展およびコレクション展1期のプログラムは展覧会会期が大幅に短縮になったものの急遽オンラインで実施し、また、横浜トリエンナーレではオンラインを主軸に開催し、トライアログ展およびコレクション展2期ではオンラインを併用して実施しました。
- ・特に、横浜トリエンナーレでは、展覧会と並行して展開されたエピソードの多くをオンラインで展開し、また他館に先駆けてボランティアによる個人、団体、外国人等にむけたオンライントークを実現するとともに、中高生、ろう者、若者支援施設、教師、学校といった様々な方にむけた鑑賞プログラムを主にオンラインで提供しました。

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p>●企画展鑑賞プログラム</p>	<p>□5回/展</p>	<p>【達成】5～15回/展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・澄川展：5回/展 <ul style="list-style-type: none"> ・トーク：2/22アーティスト対談，4-7月3プログラム配信（オンライン） ・その他：2/23作家ワークショップ（再掲） ・ヨコトリ：15回/展 <ul style="list-style-type: none"> ・エピソード：前年度11/30-10/17 00～10&X（一部オンライン） ・講演会：8/4日産アートアワード連携パネルディスカッション（オンライン） ・その他：8/23-2/28中高生プログラム（主にオンライン），9/19, 10/25ろう者鑑賞ワークショップ（オンライン） ・トライ展：5回 <ul style="list-style-type: none"> ・ギャラリートーク：1/9, 16, 2/13 ・講演会：11/14

<p>●コレクション展鑑賞プログラム</p>	<p>□5回/展</p>	<p>・その他：12/21 鑑賞アプリ 【追加】 1件 ・12/5 柵瀬展アーティストトーク 【達成】 5～6回/展</p>
<p>●人材育成事業</p>	<p>□2回/年</p>	<p>・1期：5回 ・トーク：3-5月5プログラム配信 (オンライン) ・2期：6回 ・ギャラリートーク：11/20, 25, 30 ・トーク：12/16 3プログラム配信 (オンライン) 【達成】 4回/年</p>
<p>●ボランティアによるトーク</p>	<p>□個人向け1回/年 外国人向け1回/年</p>	<p>・アートティーチャーズデー：8/1, 29 ヨコトリ (オンライン), 12/5 2期 (オンライン) ・教師向け研修：12/23 横浜市芸術文化プラットフォーム, 2/17 横浜市立中学校教育研究会美術科部会 【達成】 5回/年 ・9/16, 21 各2回, 10/71回ヨコトリ計5回 (オンライン) 【達成】 3回/年 ・9/26, 10/2 ヨコトリ英語2回, 中国語1回 (オンライン) 【追加】 3件 ・団体向け：8/21-10/9 火・金・土・日ヨコトリ (オンライン) ・8/23-ヨコトリ 12プログラム配信 (オンライン) ・9/1, 4, 6 ヨコトリ OriHime 参加者向け (オンライン)</p>

(2) 教育プログラム：子どものアトリエ

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>発信力の強化に資する事業として、多様で魅力的な事業を実践し、開館当初から横浜美術館の特徴としてきた子ども向けの創造支援事業を継承することで、子どもの自立を支援するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下記を引き続き実施します。なお、鑑賞教育の活動が軌道にのってきた状況を鑑み、子どものアトリエは、創造支援活動中心とし、専門性をより深めます。
--

- ・学校のためのプログラム：学校連携、鑑賞を組み込み、展覧会の内容や鑑賞ポイントを教師に伝えるレクチャーの開催、教師向けのワークショップ開催
- ・個人を対象にしたプログラム：造形活動、鑑賞活動
- ・市、学校、地域施設、企業、NPO 法人、ボランティア等との連携
- ・外部連携による事業展開を実施します。

[成果についての振り返り]

- ・子どものアトリエは20,000人の目標に対し1,041人(5.2%)とコロナ禍のため大きく下回りました。その要因は、今年度当初から8月末までのアトリエ講座の中止および親子のフリーゾーンの今年度全て中止です。
- ・しかしながら、9月以降対策を講じて通常講座を開始するとともに、8月以降には徐々にオンライン講座の提供を開始し、10月以降には教育普及講座のオンラインのサイトへ定期的にプログラムを提供しました。
- ・また、横浜トリエンナーレでは学校に向けた作家等のワークショップについては、学校に出向いて開催しています。

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<ul style="list-style-type: none"> ●個人むけ講座や学校向けプログラムなどの通常業務 ●アーティストあるいは外部専門文化機関との連携 ●学校プログラム、人材育成事業 	<ul style="list-style-type: none"> □利用者数 20,000人/年(3月休室) □2講座(個人講座20講座のうち)/年 □90校/年、4回/年 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【未達成】1,041人/年 [再掲：研修1回]</p> <p>*コロナ禍影響*</p> <p>【未達成】0講座/年</p> <p>*コロナ禍影響*</p> <p>【未達成】20校/年、3回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校プログラム：20校 ・人材育成：9/9, 10/28, 11/25 県内私立幼稚園向け研修(オンライン) <p>*コロナ禍影響*</p> <p>【追加】3件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/24, 8/15 1ドルコンサート at Home 親子のフリーゾーン【MMH連携】(オンライン) ・8/25 作家ワークショップ(ヨコトリ・みなとみらい本町小) ・10, 1月 教育普及「オンラインで楽しむ!エデュケーション・チャンネル」各4プログラム配信(1月：トライ展)

(3) 教育プログラム：市民のアトリエ

[目指す成果/アウトカム]

発信力の強化に資する事業として、多様で魅力的な事業を实践し、開館当初から横浜美術館の特徴としてきた一般の市民向けの創造支援事業を深化させることで、市民の創作活動を支援するため、

- ・下記の実施を強化します。なお、著名アーティストなどとの外部連携による新しい分野の講座を開始します。

<ul style="list-style-type: none"> ・市民の創作活動を支援する事業の実施 ・市、学校、地域施設、企業、NPO 法人、ボランティア等と連携 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民のアトリエは4,800人の目標に対し2,751人(57.3%)と、コロナ禍のため大きく下回りました。その要因は、今年度当初から8月末までのアトリエ講座の中止です。 ・しかしながら、9月以降対策を講じて通常講座を開始するとともに、8月以降には徐々にオンライン講座の提供を開始し、10月以降には教育普及講座のオンラインのサイトへ定期的にプログラムを提供しました。特に、横浜トリエンナーレでは、作家ワークショップを主にオンラインで提供しました。また、トライアログ展の関連プログラムとして実施した「《王様の美術館》からつむぐ物語」と題した講座では、作品から喚起される物語を広く一般の方から募集し、森山未来さんが朗読した入選作品をウェブサイトで配信するなど、オンラインを活用したユニークな試みを行いました。 		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●環境に関する講座や展覧会と連携した講座などの個人向けワークショップに加え、自主的に制作に取り組むオープンスタジオなどの通常業務 ●著名アーティスト連携による分野講座 ●東京藝術大学映像科連携講座 ●横浜市芸術文化プラットフォームによる学校連携 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □利用者数 4,800人/年(3月休室) □2講座/年 □1講座/年 □3回/年 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【未達成】 2,751人/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境： 11/3 みどりアップ(オンライン) ・展覧会連携： 2/23 作家ワークショップ(澄川展) [再掲], 7/19-10/11&8/30 作家ワークショップ&トーク(ヨコトリ・一部オンライン), 12月技法映像3プログラム&1/22 作品による物語朗読4プログラム配信(トライ展・オンライン) [一部再掲], 12/13 作家ワークショップ(柵瀬展・オンライン) <p>*コロナ禍影響*</p> <p>【達成】 3講座/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2/23 作家ワークショップ(澄川喜一) ・11/14-1/22 収蔵品の物語募集&朗読映像(森山未来)(オンライン) ・2/21 ライブラリートーク(畠山直哉)(オンライン) <p>【-】</p> <p>【達成】 4回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9/8 菅田中学校 個別支援学級(シアター・プラクティショナー) ・10/28, 11/4, 18 永田台小(エドューケーター) ・11/16 神奈川中学校(シアター・プ

		ラクティショナー) ・1/19, 26, 2/2 本郷中(ヨコトリ作家) 【追加実績】 1件 ・11-1月 教育普及「オンラインで楽しむ! エデュケーション・チャンネル」8プログラム配信(再掲)
--	--	---

(4) 市民協働：ボランティア等

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <p>市民とつながるプログラムの強化に資する事業、多彩な市民力を取り込む美術館活動の強化（コレクションに関する教育普及）、ビジターサービス機能への市民の力の活用として、美術館を市民に開き、市民が多面的に美術館とアクセスでき、新しい価値観を享受でき、愛着と誇りをもつことができる環境をつくるため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どものアトリエ運営ボランティア、美術情報センターボランティア育成を、引き続き実施します。 ・コレクション展でのギャラリートークや鑑賞会における展覧会鑑賞パートナーの育成を強化します。 ・ビジターサービスにおける市民およびNPO 法人との協働を強化します。 ・市民との協働については、外国人、障がい者、観光案内へのきめ細やかな対応を行うビジターサービス・ボランティアの推進を検討します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアについては、子どものアトリエのボランティアは活動の中心となるフリーゾーンが中止となりましたが、鑑賞ボランティアは横浜トリエンナーレでのオンライントークで活躍しました。 ・外部組織との新たな協働関係については、大規模改修後のあり方を検討しています。 		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子どものアトリエボランティア ●鑑賞ボランティア ●ビジターサービス <ul style="list-style-type: none"> ・横浜シティガイド協会等と連携した活動 ・外国人、障がい者、観光案内へのきめ細やかな対応を行うビジターサービス・ボランティアの推進検討 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □20 人/年 □80 人/年 □2 回/年 □10 人/年 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】 27 人/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4/1-3/31 <p>【達成】 81 人(ビジターサービスボランティア含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度4月-3/31 <p>【達成】 2 回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12/19NPO 法人スローレーベルによる障がいのある方と共につくる芸術活動の研修(オンライン) ・2/14 横浜市による都市計画の研修(オンライン) <p>【達成】 81 人/年(ビジターサービス・ボランティア含む) [再掲：鑑賞ボランティア]</p>

●外部組織との新たな協働関係の検討	■検討	【達成】実施 ・3期提案書案にて検討結果報告
-------------------	-----	---------------------------

(5) 市民協働：コレクション・フレンズ

<p>[目指す成果／アウトカム] 市民とつながるプログラムの強化に資する事業として、美術館活動を支える市民のプラットフォームづくりを実現するため、収蔵作品の保全、展示のための資金をサポートする市民を募る「横浜美術館コレクション・フレンズ」を継続発展させ、強化します。</p> <p>[成果についての振り返り] ・コレクション・フレンズは、オンラインで他館調査を行うなど、大規模改修後にむけた調査を行いました。</p>		
[取組内容] ●参加者数の拡大	[達成指標] <input type="checkbox"/> 大規模改修後に向けた準備	[実施内容と達成状況] 【達成】実施 ・11月他館調査（オンライン）

(6) 市民協働：各種社会貢献事業

<p>[目指す成果／アウトカム] 市民とつながるプログラムの強化に資する事業として、各種社会貢献事業を実施し、高齢者など様々な人々が、お互いを尊重して生き生きと暮らせる社会の形成に寄与するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜市、学校、関連機関、NPO 法人、市民との協働を充実させ、強化します。 ・美術館におけるエデュケーション事業の「美術館アクセス・鑑賞サポート事業」「学校教育連携事業」「環境啓発事業」を実施し、強化します。 ・障がい者向け、学校向け、環境等の講座については、「教育プログラム」として実施し、「市民協働：各種社会貢献事業」においては、美術館に来館できない方に向けたアウトリーチを強化するとともに、美術に関わる人材を育成する人材育成事業を中心に行います。 <p>[成果についての振り返り] ・アウトリーチについては、コロナ禍により病院や高齢者施設に出向くことはできませんでしたが、これまで連携してきた大学や福祉施設については、オンラインを併用し、研修や鑑賞を行いました。</p>		
[取組内容] ●アウトリーチ ・病院等 ・福祉施設	[達成指標] <input type="checkbox"/> 2回/年 <input type="checkbox"/> 1回/年	[実施内容と達成状況] 【未達成】0回/年 *コロナ禍影響* 【達成】2回/年 ・9/15 研修@K2 インターナショナル（オンライン） ※9/23, 10/6 鑑賞とワークショップ @当館 ・1/26 研修@K2 インターナショナル

<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者施設 	<input type="checkbox"/> 1 回/年	<p>[南部ユースプラザ&ユースワーク ふじさわ]</p> <p>※2/16 鑑賞とワークショップ@当館</p> <p>【未達成】 0 回/年</p> <p>※11/19 研修@横浜国立大学連携(オン ライン)</p> <p>*コロナ禍影響*</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 人材育成 ・ 子どものアトリエ インターン シップ ・ 教師のためのワークショップ 	<input type="checkbox"/> 5 名/年 <input type="checkbox"/> 2 回/年	<p>【達成】 7 名/年</p> <p>・ 4/1-3/31</p> <p>【未達成】 0 回/年[再掲:子どものア トリエ]</p>

6 施設の運営に関する計画

◇政策目標『お客様目線とおもてなしの心を持ち、様々な人に開かれた美術館運営を行います』

(1) 来館者サービスの充実

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 四つの基本方針(*)に従った来館者サービス業務 *1) 顧客サービス員の質向上 2) 顧客サービス員および市民協働の特性を活かし、より多様な来館者へのきめ細やかな対応実現 3) 多言語で、高齢者等にも見やすいパンフレット等 4) グランドギャラリーでの季節感のあるおもてなし、プロモーション 	<p>[達成指標]</p> <p><input type="checkbox"/> 展覧会来館者アンケート「スタッフの対応」評点 4.00 以上</p> <p><input type="checkbox"/> 展覧会来館者アンケート「使い勝手のよさ、清潔さ」評点 4.30 以上</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】 実施</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 委託会社契約に質向上に関する項目追加 継続 2) 多様な方々が来館しやすくなる施策を実施 ・ 団体:2 団体に事前レクチャー 3) パンフレット等整備 ・ 通常業務実施 4) 植物、ソファ 等 設置 ・ 12/26-1/7 門松 <p>【達成】 4.27</p> <p>【達成】 4.51</p>
---	---	---

(2) ショップやカフェの付加価値の向上

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ショップ 	<p>[達成指標]</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p>
--	---------------	--------------------

<ul style="list-style-type: none"> ・コレクションを活用したオリジナル商品 ・企画展関連商品コーナー 	<input type="checkbox"/> 1 商品/年 <input type="checkbox"/> 1 回/企画展	【達成】 3 商品/年 <ul style="list-style-type: none"> ・12/15：ビール 3 種 【達成】 1 回/企画展 【追加】 1 件 <ul style="list-style-type: none"> ・9/1 館長著書コーナー
<ul style="list-style-type: none"> ●カフェ ・コレクションを活用したオリジナルメニュー ・企画展関連メニュー 	<input type="checkbox"/> 1 商品/年 <input type="checkbox"/> 1 商品/企画展	【達成】 1 商品/年 <ul style="list-style-type: none"> ・11 月：1 商品 【達成】 1～3 商品/企画展 <ul style="list-style-type: none"> ・澄川展：1 商品 ・ヨコトリ：2 商品 ・トライ展：3 商品

◇政策目標『財政基盤を強化し、効率的で持続可能な運営を実現します』

(1) 適正な施設管理

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大規模改修 ●日々の適正な施設管理 ●災害対応 ・マニュアルの最新化と共有 ・訓練 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■大規模改修の実施にむけ市と協働 <input type="checkbox"/>安全管理事故 0 件/年 <input type="checkbox"/>1 回/年 <input type="checkbox"/>2 回/年 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> 【達成】 実施 【達成】 0 件/年 【達成】 1 回/年 ・5 月 【達成】 2 回/年 ・10/21, 1/26
--	--	--

(2) 経営基盤の強化

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ファンドレイジング ・法人協賛制度支援者 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>前年度同数/年 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> 【未達成】 前年度 4 社減/年 ・実績 3 社(目標 7 社) *コロナ禍影響*
--	---	---

(3) 人材強化

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学芸員、エドューケーター育成 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■学芸員、エドューケーターの求める人材像を定め、人材育成に活用 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> 【達成】 実施 ・財団スケジュールに従い実施
---	---	---

7 その他：政策協働

◇政策目標『政策協働による指定管理を推進し、横浜市の専門文化施設として最適な管理運営を実現します』

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<ul style="list-style-type: none"> ●市の政策と事業の相互連携 ●外部意見の取入れ <ul style="list-style-type: none"> ・外部有識者を交えた教育普及企画運営会議 ●年報発行 	<ul style="list-style-type: none"> □政策経営協議会 4回/年 □1回/年 □1回/年 	<ul style="list-style-type: none"> 【未達成】2回/年 <ul style="list-style-type: none"> ・8/24, 12/22 *コロナ禍影響* 【未達成】0回/年 <ul style="list-style-type: none"> *コロナ禍影響* 【達成】1回/年 <ul style="list-style-type: none"> ・11/30 発行

8 組織

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
過去の実績を踏まえ、高い専門性を発揮できる組織として、事業展開と施設の安全安心な運営を強化	<ul style="list-style-type: none"> □計 46人 ・館長 1人 ・副館長 2人 ・グループ長 5人 ・チームリーダー 9人 ・担当リーダー・職員 29人 	<ul style="list-style-type: none"> □計 52人 ・館長 1人 ・副館長 2人 ・グループ長 4人 ・チームリーダー 9人 ・担当リーダー・職員 36人

9 留意事項

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<ul style="list-style-type: none"> ●保険及び損害賠償の取扱い ●法令の遵守と個人情報保護 ●情報公開への積極的取組 ●市及び関係機関等との連絡調整 ●その他 <ol style="list-style-type: none"> 1) 許認可及び届出等 2) 施設の目的外使用 3) 人権の尊重 4) 近隣対策 5) 重要書類の管理 6) 行政機関が策定する基準等の遵守 7) 法令の制定及び改正への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ■業務の基準に基づいた適正な取扱い ■コンプライアンス窓口を設置し対応 □個人情報保護研修 1回/年 ■財団事務局に情報公開窓口を設置し対応 ■横浜市や関連機関との連絡緊密化 ■法令・条例・規程等に基づいた適正な管理実施 	<ul style="list-style-type: none"> 【達成】実施 【達成】実施 <ul style="list-style-type: none"> ・財団にて設置済 【達成】1回/年 <ul style="list-style-type: none"> ・1/22 全職員実施 【達成】実施 【達成】実施 【達成】実施

10 特別事業

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<ul style="list-style-type: none"> ●大規模改修 ●夜間開館 	<ul style="list-style-type: none"> ■実施設計および引越しについて、市の計画に基づいた迅速な対応と協力 □企画展会期中の毎金土夜 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】 実施</p> <p>【未達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月ヨコトリで実施 <p>*コロナ禍影響*</p>

令和2年度 「横浜美術館」 収支報告書

(指定管理者が記入する様式)

収入の部

(税込、単価：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	1,038,783,000		1,038,783,000	999,780,424	39,002,576	横浜市より
文化施設運営事業	775,423,000		775,423,000	775,423,000	0	
芸術文化支援事業(夜間運営費)	39,360,000		39,360,000	357,424	39,002,576	夜間開館日減による精算
美術館大規模改修事業(作品等移転費)	224,000,000		224,000,000	224,000,000	0	
利用料金収入	62,398,000		62,398,000	27,556,989	34,841,011	レクチャーホール、駐車場、コレクション展観覧料
自主事業収入	92,296,000		92,296,000	68,069,080	24,226,920	企画展観覧料、講座料等
横浜市による運営支援(休館期間等)	0		0	5,317,000	△ 5,317,000	休館期間等における新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた横浜市による運営支援
雑入	72,038,000	0	72,038,000	47,081,020	24,956,980	ショップ、カフェ等収入
印刷代	0		0	0	0	
自動販売機手数料	1,323,000		1,323,000	496,373	826,627	
駐車場利用料金収入	0		0	0	0	
その他(ショップ、カフェ等)	64,715,000		64,715,000	38,280,955	26,434,045	ショップ、カフェ等 人数制限・臨時休館による減
その他(協賛金、補助金、寄付金)	6,000,000		6,000,000	8,303,692	△ 2,303,692	企業協賛金、文化庁補助金等
収入合計	1,265,515,000	0	1,265,515,000	1,147,804,513	117,710,487	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	362,905,000	0	362,905,000	358,830,802	4,074,198	
給与・賃金	294,523,000		294,523,000	296,077,146	△ 1,554,146	職員、派遣職員人件費
社会保険料	46,362,000		46,362,000	45,587,919	774,081	
通勤手当	6,799,000		6,799,000	6,873,144	△ 74,144	
健康診断費	0		0	0	0	
勤労者福祉共済掛金	0		0	0	0	
退職給付引当金繰入額	15,221,000		15,221,000	10,292,593	4,928,407	職員配置調整により減
事務費	12,895,000	0	12,895,000	9,273,066	3,621,934	
旅費	955,000		955,000	57,779	897,221	出張費
消耗品費	1,775,000		1,775,000	1,432,699	342,301	新聞、日常消耗品
会議随費	0		0	0	0	
印刷製本費	677,000		677,000	125,224	551,776	封筒、名刺
通信費	1,813,000		1,813,000	2,202,726	△ 389,726	郵送料、電話料金等
使用料及び賃借料	1,466,000	0	1,466,000	1,392,207	73,793	
横浜市への支払分	164,000		164,000	150,040	13,960	横浜市目的外使用料(自動販売機)
その他	1,302,000		1,302,000	1,242,167	59,833	コピー機レンタル料等
備品購入費	674,000		674,000	0	674,000	
図書購入費	0		0	0	0	
施設賠償責任保険	251,000		251,000	164,144	86,856	
職員等研修費	478,000		478,000	53,630	424,370	研修、講習費等
振込手数料	1,346,000		1,346,000	938,946	407,054	
リース料	0		0	0	0	
手数料	2,398,000		2,398,000	1,864,711	533,289	産廃処理料等
地域協力費	1,062,000		1,062,000	1,041,000	21,000	各種年会費
事業費	210,554,000	0	210,554,000	175,833,780	34,720,220	
自主事業費	210,554,000		210,554,000	175,833,780	34,720,220	展覧会制作、教育普及、広報等。中止・人数制限による減
夜間開館事業費	39,360,000	0	39,360,000	357,424	39,002,576	夜間開館日減により減少
移転関係費	224,000,000	0	224,000,000	224,000,000	0	美術館大規模改修に伴う経費(事務所等移転、作品・図書移転、仮拠点整備・管理費等)
管理費	228,272,000	0	228,272,000	208,631,448	19,640,552	
光熱水費	78,030,000	0	78,030,000	58,661,608	19,368,392	新型コロナ影響を受けた臨時休館による減少
電気料金	74,400,000		74,400,000	55,420,518	18,979,482	
ガス料金	30,000		30,000	20,954	9,046	
水道料金	3,600,000		3,600,000	3,220,136	379,864	
清掃費	29,354,000		29,354,000	27,642,051	1,711,949	新型コロナ影響を受けた臨時休館による減少
修繕費	2,500,000		2,500,000	2,093,300	406,700	小破修繕費
機械整備費	6,452,000		6,452,000	6,451,032	968	
設備保全費	111,936,000	0	111,936,000	113,783,457	△ 1,847,457	
空調衛生設備保守	11,990,000		11,990,000	10,711,580	1,278,420	エアフィルター仕様変更による減
消防設備保守	2,079,000		2,079,000	2,079,000	0	
電気設備保守	996,000		996,000	995,500	500	
雷虫駆除清掃保守	0		0	0	0	
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	96,871,000		96,871,000	99,997,377	△ 3,126,377	設備、書棚、券売、ネットワーク、レクチャーホール、駐車場、設備保守委託等。警備及び顧客案内業務委託費の減。
共益費	0		0	0	0	
公租公課	40,407,000	0	40,407,000	40,363,350	43,650	
事業所税	0		0	0	0	
消費税	40,168,000		40,168,000	40,335,700	△ 167,700	
印紙税	223,000		223,000	12,000	211,000	
その他(固定資産税)	16,000		16,000	15,650	350	
事務経費(計算根拠を説明欄に記載)	147,122,000	0	147,122,000	124,026,749	23,095,251	
本部分	74,277,000		74,277,000	75,017,000	△ 740,000	事務局繰入金支出(事務局精算による数値)
当該施設分	72,845,000		72,845,000	49,009,749	23,835,251	ショップ運営費大幅減、カフェ、券売、特別鑑賞会、新型コロナ影響対策費等
二一ス対応費	0	0	0	0	0	
支出合計	1,265,515,000	0	1,265,515,000	1,141,316,619	124,198,381	
差引	0	0	0	6,487,894	△ 6,487,894	